

# 田澤 有石（たざわ・ありし）

## 1、プロフィール

川柳作家。県柳壇の草創期に小林不浪人の「みちのく」に対抗し、「川柳隊」を発行。県柳壇の基礎作りに大きく貢献した。

<生没>

1897(明治 30)年2月4日 ~ 1950(昭和 25)年4月 15 日

<代表作>

「時計巻きながら今日の日自省する」(川内町にある句碑に刻まれている句)

<青森との関わり>

青森市に生まれる。郵便局員として県内はじめ東北各地を転任する。

## 2、作家解説

明治 30 年青森市に生まれる。本名同じ。大正2年県立青森中学中退後、仙台通信講習所入学。大正4年(18 歳)、同講習所卒。同年青森郵便局勤務。昭和9年(32 歳)、大館郵便局勤務、以後県内及び東北各地を転任。昭和 25 年八戸郵便局勤務中に死去。

昭和初期、東奥柳壇(東奥日報、小林不浪人選)に投稿、不浪人に認められる。その後不浪人の元を離れ、7年青森川柳社を結成、機関誌「川柳隊」を発行。15年頃、有石の転勤などにより自然消滅。22年弘前市で「うき世吟社」創立。23年青森県川柳社創立に参画、また、八戸川柳社にも加盟。小林不浪人に対抗し「川柳隊」を発刊することにより、県柳壇の基礎作りに大きく貢献。「川柳隊」を通じ「きやり」(東京)、「番傘」(大阪)等、中央柳壇とも交流、県柳壇の幅を広げた。以後も川柳活動を続け県柳壇の発展に尽力。昭和 25 年川柳講演中に突然倒れ死去。享年 53。あまりにも早い死であった。

平成4年、川内町の川内川溪谷遊歩道「川柳の森」句碑群の一基として句碑建立。

「時計巻きながら今日の日自省する」

### 3、資料紹介

○川柳句文集『霧の声』

図書

1994(平成6)年

195mm×140mm

長女である川柳作家の宇田川圭子が、自身と亡き夫で川柳作家花南井可、そして父有石の作品と短文を集めた一冊である。田澤有石のまとまった作品集としては、生前も含めてこれ一冊のみである。発行者宇田川圭子。